

東京湾に就航した

災害対応型 新消防船「ひいらぎ」

の見学会を開催します。

指定海上防災機関(一財)海上災害防止センター(理事長:白石昌己)は、公益財団法人日本財団(会長:笹川陽平)のご支援を受け、災害対応型の新消防船「ひいらぎ」を東京湾に就役させ、この度、皆様にご披露させていただく運びとなりました。

脱炭素社会の実現に向け、水素、アンモニア等の新エネルギーの導入に向けた検討が進む中、海上防災力もこれを視野に入れた対応が求められることから、従来の消防船に比べて多様な災害に対応できる新たな消防船となっています。

下記の日程で本船「ひいらぎ」の見学会を開催いたしますので、ご多忙とは存じますがご来訪いただけますと誠に幸いです。

～ひいらぎの特徴～

- ・コンビナート火災にも対応できる大容量放水銃(消防車20台分の水量)(写真3)
- ・水と粉末消火剤を同時噴出可能なハイドロケム消火装置(写真4)
- ・消防車20台分の能力を有する送水用消火栓(写真5)
- ・救援物資を搭載するためのフラットな後部甲板(20ftコンテナ搭載可能)(写真6)

～ 災害対応型新消防船「ひいらぎ」見学会 ～

日 時: 令和7年3月1日(土) 午前11時00分～午後12時00分

場 所: 東京都江東区有明3丁目13地先 10号地その1西側多目的ふ頭

集 合: 同日午前11時00分までに、東京ベイ有明ワシントンホテル3階総合受付までご集合ください。(図1参照)

内 容: 消防船「ひいらぎ」船内外の見学と設備説明

(午前11時10分と午前11時40分には、「ひいらぎ」から岸壁へ消火水提供を行い、展示放水を行う予定です。)



※東京ベイ有明ワシントンホテルから見学会場の間では、マイクロバスのピストン輸送を実施いたします。



写真1 【航走する消防船ひいらぎ】



写真2 【放水する消防船ひいらぎ】

（放水(上):ハイドロケム消火装置
放水(下):大容量放水銃）



写真3 【大容量放水銃 2門を装備】

※放水能力は従来(18,000L/分)の約2倍の
40,000L/分を確保



写真4 【ハイドロケム消火装置】

※円錐状に噴射される消火水の中心に粉末
消火剤を噴出することで、風の影響を
少なくすることを実現



写真5 【送水用消火栓】

※本船の左右両舷に送水用消火栓4門ずつ、
計8門を装備



写真6 【フラット化した後部甲板】

※物資コンテナ(20ft コンテナ)が搭載可能
となり、救援物資などの搬送能力を強化



図2 【ひいらぎシンボルマーク】

←左図は、消防船ひいらぎ船体左右舷に描かれているシンボルマーク
です。公募により、船名とともにこのシンボルマークが決まりました。
古来、ひいらぎは、災いを遠ざけると信じられてきた植物であることか
ら、その葉と実をモチーフにし、消防船が波をかき分けて航走する姿
をイメージしたデザインとなっています。

【災害対応型消防船ひいらぎ 要目】

- 竣工：2024年10月18日
造船所：金川造船株式会社（兵庫県神戸市）
総トン数：349トン
全長：42.0メートル
幅：10.2メートル
満載喫水：3.3メートル
主機関：(株)IHI 原動機 6L28HX (1, 618 キロワット) × 2 基
推進機：(株)IHI 原動機 ZP-31 × 2 基
速力：15.2knot (100%回転)
最大搭載人員：乗員 8 名含め最大 28 名
化学消防装置：大容量放水銃 20, 000L/分 × 2 門 (最大射程距離 136 メートル、泡消火剤最大搭載量 24, 000L)
 ハイドロケム消火装置 (最大放水能力 5, 000L/分、粉末消火剤搭載量 2, 000 キログラム)
 その他粉末消火ノズル (最大放射能力 40 キログラム/秒、粉末消火剤搭載量 2, 000 キログラム)

【弊センター概要】

- 法人名：指定海上防災機関 一般財団法人海上災害防止センター
代表者：理事長 白石昌己
主事業：海上における油等の防除、消防船による消火、海上防災のための訓練等
所在地：神奈川県横浜市中区太田町 2-2-3
 横浜メディア・ビジネスセンター 7 階
URL： <https://www.mdpc.or.jp>

【取材申込先】

- 総務部 総務課 (担当)：近藤または山口
☎：045-224-4311
E-mail: fireboat-recruitment@mdpc.or.jp